

教科	国語	科目	言語文化			単位数	2単位
学科	工業科	履修学年	1 学年	コース		必修・選択	必修
教科書	『精選言語文化』 第一学習社						
副教材等	『新訂総合国語便覧』 第一学習社 『体系古典文法九訂版』 数研出版 『必携明説漢文』 尚文出版						

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
指導の重点	<p>(1) 古典や近現代のすぐれた文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身につけ、豊かな感性や情緒を身につけられるようにする。</p> <p>(2) 生徒が主体的に対話的・共同的な学習活動を積み重ねることにより、思考力・判断力・表現力を養えるようにする。</p> <p>(3) 歴史的・文化的背景をふまえて国語文化をとらえ、自分自身が文化の担い手であることを自覚し、主体的に多様な文化を捉えることができるようにする。</p>

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (20)	<p>羅生門 (芥川龍之介) 文学のしるべ</p> <p>読むこと・近代以降(7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。 ・老婆の語る論理を、叙述を基に読み解き、学習課題に沿って、下人がどのように判断したか、説明しようとしている。 ・典拠となった『今昔物語集』の説話と粘り強く読み比べ、作者の工夫をまとめようとしている。 	<p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>c</p> <p>c</p> <p>c</p>
		<p>児のそら寝 古文を読むために1</p> <p>読むこと・古典(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。 ・時間の経過による言葉の意味の変化を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。 	<p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>c</p> <p>c</p>

	<p>訓読に親しむ 漢文を読むために</p> <p>読むこと・古典(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、助字のはたらきと意味を習得する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。 ・故事成語や格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。 ・日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。 	<p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>c</p> <p>c</p>	
	<p>夢十夜（夏目漱石）文学のしるべ</p> <p>読むこと・近代以降(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解く。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・「夢」という設定の中での判断やその根拠を捉え、内容及び作品世界を解釈して説明しようとしている ・『夢十夜』の他の話を積極的に読み、あらすじをまとめて発表しようとしている。 	<p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>c</p> <p>c</p>	
	<p>漁父之利</p> <p>読むこと・古典(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。 	<p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>c</p> <p>c</p>	
	<p>なよ竹のかぐや姫</p> <p>読むこと・古典(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典特有の世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを知る。 ・伝奇的作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・古語辞典の引き方に慣れ、主として活用について、文語のきまりを理解する。 ・初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写の特色を捉えようとしている。 ・用言の活用について理解し、学習の見通しをもって活用形を調べようとしている 	<p>a</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>c</p> <p>c</p>	<p>定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。</p>
	<p>2学期 (24)</p>			

		<p>伊勢物語 〔歴史の窓〕 古文を 読むために 3</p> <p>読むこと・古典 (5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「東下り」では課題に応じて調査する。 ・「芥川」では絵画資料と、「東下り」では他の章段と、「筒井筒」では『大和物語』の同話と、それぞれ読み比べ、解釈を深める。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と「筒井筒」の課題を踏まえて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・主として用言の活用について、文語のきまりを理解する。 ・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。 ・学習課題に沿って異なるテキストと読み比べ、わかったことを積極的に伝え合おうとしている 	<p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>c</p> <p>c</p>
		<p>狐借虎威</p> <p>読むこと・古典 (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。 	<p>a</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>c</p>
		<p>鏡（村上春樹） 文学の しるべ</p> <p>読むこと・近代 以降(5) 書くこと(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・恐怖体験の一つとして語られる、幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解く。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・人の内面に潜む恐怖の正体を進んで考察し、解釈したことを説明しようとしている。 ・恐怖体験を語る小説における、暗示や比喩の効果について、積極的に評価しようとしている。 	<p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>c</p> <p>c</p>
		<p>枕草子 古文 を読むために4 〔歴史の窓〕</p> <p>読むこと・古典 (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。 ・自由な文体の随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「九月ばかり」では課題に応じて調査する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と読み合わせて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・主として助動詞について、文語のきまりを理解する。 ・「はしたなきもの」では時間の経過による言葉の変化について理解する。 ・学習の見通しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。 ・作品に表れたものの見方・考え方や美意識を積極的に理解し、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。 	<p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>b</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>a</p> <p>c</p> <p>c</p>

3 学期 (20)	城の崎にて (志賀直哉) 文学の しるべ 読むこと・近代 以降(6) 書くこと(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの小動物の死と関連して心境が語られる構成を読み取り、作中に示された死生観について考えを深める。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・作品に表れている死生観を捉え、内容を解釈しようとしている。 ・『いのち』と粘り強く読み比べ、自分の考えを論述しようとしている。 	b b b b a a a c c	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	土佐日記 古文を読むために5 読むこと・古典(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。 ・女性に仮託して書かれた日記という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている批評や諧謔の精神と、亡児追憶の心情を捉え、内容を解釈する。 ・「門出」「亡児」では課題に応じて調査する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として助詞について文語のきまりを理解する。 ・学習の見通しをもって虚構性の高い日記を読み、執筆意図などについて積極的に批評したり討論したりしようとしている。 ・学習課題に沿って異なるテキストを読み合わせて、わかったことを積極的に伝え合おうとしている。 	b b b b a a a c c	
	唐詩の世界 漢詩のきまり [歴史の窓] 読むこと・古典(6)	<ul style="list-style-type: none"> ・表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・漢詩のきまりを理解する。 ・漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 ・粘り強く漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明しようとしている。 	b b b a a a c c	
読むこと・古典(40) 読むこと・近代以降(20) 書くこと(4) 計64時間(55分授業)				
評価規準と 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
[評価方法] 以上の観点を踏まえ、定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が80%以上をA、79~50%をB、50%未満をCと評価する。				